

「大谷こども園」に視察に行ってみました！

菊池 勇希

夏休み中に幼保小連携関係の研修を受講したので、田中先生にお願いをして、連携の一環として大谷こども園の参観日に合わせて、視察に行ってきました。

参観させていただいた授業の概要と10の姿とのつながり

流れ	子どもの活動 (⇒は菊池が学んだこと)	10の姿で考えると…
導入	<p>①「何を」「どこまで」作ったのかを発表する。 ⇒時間的にも心的にもゆとりをもって指示していた。 ⇒全員が聞く準備が整うまで先生はじっくりまっていた。 ⇒聞く姿勢が整っている子を取り上げて、具体的にどうなれば良いのかを示していた。</p>	<p>⑨言葉による伝え合い ⇒自分の取組状況を伝えたり、友達の取組状況を知るために一生懸命聞いたりしていました。</p>
製作	<p>②グループの友達と話し合いながら、テーマに沿った作品を作る。 ⇒「これ、なに作っているの?」「このあとどうするの?」「どんな味なの?」などと子どもの思考を促す発問を繰り返していた。 ⇒「見て!見て!」「これ、すごいよ!」などと声をかけ、子どもの工夫などを取り上げ、他の子どもにもそれが広がるよう促していた。 ⇒発問や声かけを通して、子どもの考えを確認したり、整理したりしているのがとても印象的だった。</p> <p>③必要なものを考え、試行錯誤しながらイメージを形にしていく。 ⇒机の上には、はさみ、のり(手でつける)、クレヨン、セロハンテープなどが用意されていた。材料エリアには、たくさんの色画用紙、トイレットペーパーの芯などの材料を用意し、好きな材料を必要な分だけもっていけるように場の工夫をしていた。</p>	<p>②自立心 ⇒グループで決めたテーマに向かって主体的に取り組んでいた。</p> <p>③協同性 ⇒教師や友達と協力して、学び合う姿が見られた。</p> <p>⑥思考力の芽生え ⇒材料を組み合わせるとどうなるかを予想したり、試したりする姿が随所に見られた。</p> <p>⑩豊かな感性と表現 ⇒友達と一緒に表現することを楽しむ中で、様々な表現の仕方に気づく姿が見られた。</p>
まとめ	<p>④活動の中でできたところまでを振り返る。 ⇒先生方が子どものことをよく見取り、振り返り活動の際に、子どもの考えていることをくみ取り、表現できない部分については子どもに発問をしたり、「〇〇しようとしたんだよね」などと共感的に受け止めたりしていた。 (工夫やよさを認めたり褒めたりするのが上手!)</p>	<p>⑨言葉による伝え合い ⇒自分の取組状況を伝えたり、友達の取組状況を知るために一生懸命聞いたりしていました。</p>

結論

こども園の先生は、褒め上手、認め上手、引き出し上手!

小学校(特に低学年)では、幼児教育に学ぶ部分が多くなるなと感じました。

※写真はNGだったので文章だけで見づらくてごめんなさい…